



高円宮妃殿下を名誉総裁にお迎えするにあたって

一般財団法人日本AED財団理事長 三田村秀雄

一般財団法人日本AED財団は、心臓突然死から人々の命を救うことを目的として、前身の「減らせ突然死」プロジェクト委員会の発展形として2016年7月に古川貞二郎（元内閣官房副長官、元厚生事務次官）を会長、佐藤禎一（元文部事務次官、元ユネスコ大使）を副会長として設立されました。

日本で自動体外式除細動器AEDを一般市民が使用できるようになったのは2004年7月のことですが、それまでは医師や看護師、救急救命士しか使用することができませんでした。ところが2002年11月21日に高円宮憲仁親王がスポーツ中に突然、心停止に陥り、急逝されるというご不幸がありました。そのときに多くの医療関係者が共有した思いは、もしAEDがあつて、周囲の人達がそれを使えば一命を取り留めたかもしれない、というものでした。大変悲しい出来事でしたが、これを機に国内でAEDへの理解が急速に広まり、2004年の一般市民への解禁につながりました。

心臓が原因の心停止で倒れた人を目撃した現場の市民が、近くのAEDを使って電気ショックを行うと半数が救命されることが実証され、2015年までに合計3,197名もの命が救われています。しかしそれでもまだ十分とは言えません。学校やスポーツの場はもちろんのこと、広く生活社会においてこの数をもっと増やすことが可能であり、そうしなければいけないとの思いから本財団を立ち上げました。

この度、AEDの必要性を誰よりも深く感じ理解されておられる高円宮妃殿下を当財団の名誉総裁にお迎えすることとなり、大変光栄に存じております。これからは妃殿下の思いを反映すべく、AEDを利用した救命の必要性と実現性を強く国民全体に訴えていきたいと願っております。

